

クラス	TU309	担当教員	小坂啓史
テーマ	芸術・文化の社会学～社会へアクセスする手法としての制作と作品から読みとく社会		
著書・論文	【近年の研究課題】文化社会学（映画社会学、芸術社会学）、エスノメソドロロジーとケア		
研究課題等	2020年「映画の表現技法におけるモンタージュと鑑賞」 2020年「アール・ブリュットと鑑賞教育—その『作品』との出会いによる可能性—」 2020年「芸術への解釈的相互関係の視点とパウル・クレー」 2018年「フィクション映画を用いた演習による社会学的思考の醸成についての考察」		
ゼミナール概要			
キーワード：現代文化、サブカルチャー、芸術文化、視覚・映像文化、社会問題			
《 内容・方法について 》			
（１）現代文化・サブカルチャーを社会学で読みとく			
このゼミでは「社会学的想像力」（ミルズ）を用い、制作者によって表現された作品、とくに視覚芸術あるいはサブカルチャーの作品を社会的に読みとく、時代や社会との相互関係について考察していきます。対象としては、実写だけでなくアニメーションを含む映画・映像作品、写真や絵画、マンガなども含まれます。さらにこうした作品が私たちの日常における相互行為にどのように影響しているのかについても考察していきます。			
（２）社会（問題）を現代文化・サブカルチャーで読みとく			
さらに、現代社会において「社会問題」とされることについて、さまざまな作品においてどのように描かれているか、どのように問題提起され（あるいはされず）、どのように「社会問題」の構築に一役買っているかといったことについても考察していきます。作品形態によってどのように描かれ方が異なるか、印象や意味のちがいがどのようにあらわれているかについても考えていきましょう。			
（３）社会学の研究方法を身につけよう			
そして社会学の研究方法についても、改めて学んでいきます。論文を書くためには、問題関心、研究テーマのブラッシュ・アップのしかたや、それをどのように具体的に分析、研究したらよいかについて分かっている必要がありますね。そうしたことについても、きちんとおさえていきましょう。なるべく早めに自分が追求したいテーマを見つけて、卒業論文に着手していきましょう。			
《 ゼミの進め方など 》			
最初は共通の文献や論文を取り上げて、まずは分析・考察に必要な知識や方法について目くばせしていきましょう。ゼミでは報告と話し合いをしていくことがメインになります。また、映画ゼミ（テーマとなる映画作品を鑑賞、社会的分析を行っていくゼミ）や、論理的な考え方や書き方について練習するサブゼミを行う場合もあります。さらに、（新型コロナ感染症の状況によりますが）3年生（予定）の夏休み期間に、ゼミ合宿を行う予定です。これへの参加を前提に、エントリーをしてください。			
担当教員からのメッセージ			
ゼミでは使わないでほしい言葉があります。それは、「わかりません」「同じです」です（これらのバリエーションも）。わからないことがあれば、きちんと提起をして、みんなで話し合っただけでいいですし、また、意見が他の人と同じでも、きちんと自分の言葉で述べるのが大事です。もう一つ気をつけてほしいことがあります。それは、意見を単純化させすぎることです（たとえば、「（どうせ）～にすぎない」といった言いまわし）。社会問題など社会で起こるさまざまな現象は、「～にすぎない」など、一言で答えられるほど単純なしくみで現れるわけではありません。またこの意味での単純化は、よくない意味での「シニカルさ」につながり、結局何も考えていないことになってしまう恐れもあります。			
上記のようなゼミテーマには初めて取り組むわけですし、わからないことや知らないことがあるのは恥ずかしいことではありません。集中しつつもリラックスして、ゼミに臨んでください。そのための環境づくりには、十二分に配慮していくつもりです。			